

●四季折々滝にも表情

都農町から見る尾鈴山（一、四〇五^{メートル}）は左右対称で美しい。

歌人若山牧水は尾鈴山をこよなく愛した。生地・東郷坪谷は、都農町から尾鈴山を隔てて反対側。牧水は若いころ、何度か都農町を訪れている。現在、JR都農駅前の広場に、尾鈴山の巨石を使った「ふるさとの尾鈴のやまのかなしさよ 秋もかすみのたなびきてをり」の牧水歌碑が立つ。

尾鈴山中を流れる名貫川上流に展開するのが、大小三十余の滝で形成される「尾鈴山瀑布（はくふ）群」である。一九四四（昭和十九）年、「国の名勝」に指定され、瀑布群を含む尾鈴山系は県立自然公園になっている。

瀑布群は矢研谷、甘茶谷、樺（げやき）谷の三カ所の渓谷に分布している。代表的な滝が「矢研滝」「白滝」。



次郎・四郎滝。夏はキャンプもできる。暑さ知らずの別天地

「矢研滝」は駐車場から歩いて約三十五分。水量も豊富で、高さ七十三^{メートル}から落下するさまは威圧感があつて迫力十分。九〇（平成二年、日本の滝百選に選ばれた。上流には日向神話に出てくる「天の磐舟（いわふね）」と呼ばれる大岩がある。

「白滝」は高さ七十五^{メートル}。落差は瀑布群最大。水量はやや少ないが、岩壁を縫うように落下。厳寒の季節はつららが下がり、荘厳な雰囲気か漂う。駐車場から片道約二時間だが、昔のトラック軌道敷跡が滝近くまで続いており、途中の「すずかけの滝」「はがくれの滝」などを観賞しながらの散策は楽しい。

このほか、矢研谷の「鈴見滝」「二見滝」「若葉滝」、甘茶谷の「次郎・四郎滝」「千畳滝」、樺谷の「紅葉滝」「しゃくなげの滝」「さらさの滝」など、四季折々に素晴らしい景観を誇る。

尾鈴山は植物の宝庫でもある。ここだけに生育しているキバナノツキヌキホトトギスやウラジロミツバツツジなどの貴重種をはじめ、多種多様の植物が自生している。

かつて尾鈴山は、うっそうとした広葉樹の山であった。三十年間、キャンプ場の管理人をしている河野勝美さんは「昭和五十五年ころまで、矢研滝周辺には大人三、四人が雨宿りできるほどの洞（うろ）のあるカシの巨木があった。また、当時のアケボノツツジの美しい群落は今も県内どこにもない」と語る。

滝巡りを満喫しながら、季節の花、植物に触れるのもいい。交通の便がよく、手軽に登山できるため、現在、年間四、五万人の滝巡りや登山者が訪れている。

堀内文夫